

★9月号の特集は、園の防災、どうしてる？(19頁～)

近年多発する地震や水害、そして感染症…園の災害対策の事例、被災事例など、子どもたちの豊かな育ちを保障する保育の中にどう防災を位置づけるか。日常の保育実践とともに、保育者、保護者、地域、行政との日ごろから関係づくりなど。今回の特集は、読んで皆で考えあって終わりではなく、常に日常の保育をチェックする道標になると思います。

◎実践：命を守るためには見えない部分の育ちを大事に(24頁～)

- 災害が起きたときに子どもたちを守るうえで大切なことは①「環境を知ること」園舎内外の環境把握とともに速やかな避難をどうするか、頭と体に覚えさす体感が大事、②「子どもの発達を知ること」災害時に子どもたちの発達に応じた無理のない避難方法を常に把握しておくこと、③「情報の共有」職員間だけでなく、保護者、近隣の方、行政とも適切な手段で連絡をとりあう必要がある。
- 「子どもが自らあそびを選び、とことん遊ぶ環境」を大切にすることで、運動能力、コミュニケーション能力を育て、見守ってくれるおとなとの安心感の中で、自分自身を大切に思い、様々な力をつけていき、共に生きる大切さを知る。
- 自分自身の体験を通して感じる心を育てていくことも大事。
- 避難訓練とのふり返りで、新たな課題が出てきてマニュアル化するが、その作成過程が大事。そして、「考える力」をおとなもつけていく。

◎実践：台風19号による浸水被害を経験して(29頁～)

- 日ごろからの園同士の交流が、災害時の助け合いにつながる。
- 公立園があることの重要性と災害支援補助金制度を日常から確認を。

◎小論：どうすればいい？園の防災・避難計画(36頁～)

- 防災対策にしっかり取り組めば、常に安全面に気を配るようになり、保育者としての力量も付き、チームワークも強固となり、保護者との信頼関係も深まる。
- 「マニュアルがあるから大丈夫」ではなく、新たな災害から学び、常に見直す。
- 職員と防災対策を話しあい、保護者には説明の機会を。
- 子どもたちと共に職員、保護者の命を守ることも大事。
- 子どもたち自身が年齢に合わせて自らの身を守る力を育てる保育を。
- あらゆる事態を想定し、万全の準備をしたうえで、その状況下で最善を尽くす必要があります。そのための実践的な訓練が必要。
- 災害発生時、避難所や保育施設での感染症対策も必要。

新型コロナウイルスと保育園アンケートにご協力ください

8月10日までに送付願います。選択肢と自由記述です。

【送付先】福岡県保育センター FAX092-781-1995

またはEメール center5234@rose.plala.or.jp

- ◎回答者 ①保育者(経験年数 年) ②保育者であり保護者(父・母)
- ③保護者(父・母・) ④それ以外の方()
1. お仕事 ①自営業・フリーランス・経営者 ②正規職員(医療・保育・福祉)
- ③非正規職員(医療・保育・福祉) ④正規職員で②以外の業種
- ⑤非正規職員で③以外の業種 ⑥求職中・その他()
- ⑦その他()
2. 登園自粛要請中の対応(保育者は園では?保護者は家庭では?)
3. 登園自粛が解除されて現在は?(保育者は園では?保護者は家庭では?)
4. 現在、不安に思うことがあれば具体的にご記入ください。
5. 今後の子育てや保育で、お気づきのことやご要望をご記入ください。